平成22年度 萌える天北オロロンルート活動報告

- 1. ルート運営活動計画の進捗状況
- 2. 活動団体の活動状況及び課題
- 3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題
- 4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 萌える天北オロロンルート 報告者:代表 西 大志 報告年月: 2011/3/31

ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	No	活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況 資料番号	
		1	エゾカンゾウ植栽プロジェクト	小平行来	平成22年5月~10月	25人		→景観形成についての総括
					平成22年10月~平成23年3 月	24人		→ 下吸か深にしいくの終的・ ・昨年採取した種を5月にブランターへ植えたが、昨年同様に 発芽状態が非常に悪かった。しかし、本年度秋には小平町や 吉前町においても種の採取ができた。このエゾカンゾウの広が → りを次年度以降に広げるために、各市町村におけるエゾカンゾ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
					平成22年6月21日	8人		ウの自生や植栽に関する調査、及びエゾカンソウ植栽の基礎 的な実績となるように小平町での活動をまとめたい。 ・こうした活動から、沿道景観についての調査やワークショップ ・ク実施、協力、海岸清掃においては各自治体との連携も取れ
ルートストーリー(添	ルートストーリー(添付参照)		フォーラム開催プロジェクト	シーニックバイウェイ北海 道推進協議会	平成22年11月27日~28日	5人		「の失感、助力、海岸・浜畑(このいては各自治体との連携も取れ 始めてきた。更なる活動に機連も高まってきている。 ・ 摩屋や看板撤去などいける景観形成の解決策をさぐることに 苦慮している。手法などを先進地から学べるような繋がりを模 ・ 楽し、次年度以降に展開を望む。
				ヒラメ底建網オーナーin遠 別実行委員会	平成22年6月19日	500人	MO - 1	条し、次年及以降に展開を呈む。
			萌天の森プロジェクト	萌える天北オロロンルート 運営代表者会議	平成22年4月~10月	70人		観光振興についての総括 ・ヒラメのオーナー制度から、地場産品のブランドカの強化と地域内循環からの地域経済に与える影響の調査研究をする動き
			-	7 情報:	情報受発信プロジェクト	地域情報受発信システム 実行委員会	通年	100人
景観·環境保全·歴史文化		8	羆道プロジェクト	苫前町観光協会 苫前町商工会青年部	平成22年6月~9月			る設え方を確立させるための、連携に力を注いできた。次年度 以降は実際の展開により、更なる集客や地域内での経済循 環、経済交流に研究を進める必要性がある。
景観・環境保全・レクリエーション		9	萌天サイクリングプロジェクト	苫前町商工会青年部	平成22年7月18日~19日	50人	MO - 2	
景観・レクリエーション		10	トライアスロンメモリアルキャラ バンプロジェクト	萌える天北オロロンルート 運営代表者会議	平成22年10月~平成23年3 月	50人	MO - 3	地域づくりについての総括 ・情報受発信システム実行委員会において、相当数の住民の 方、活動団体からの情報提供・共有がなされ、地域に根ざした
								タイムリーな情報でそれぞれの町の愛着を育みながら、萌天地域のファン(fan)づくりを進めてきた。ルート内の人や食、未開発の観光資源の情報が徐々に共有され、地域情報が集まって効果的に発信できていることから、テレビ、新聞、雑誌などの大
								手メディアが、情報を聞きに来るようになってきている。 ・3年目のサイクリングブロジェクトは、苫前町、羽幌町の国道、 道道、町道を利用し参加者を募り、内陸部などの道路景観を楽 しみながら、海に山にふるさとの良さを再発見する2日間となっ
								た。親子で参加が基本で親もはじめて通る道、険しい山道など も体験し親子の絆も深めた。ルートにある資源を活かし、子ども 達の情操教育、地域力を確かめるプロジェクトとなった。

参考資料1 これからのプロジェクト

(1)プロジェクトの構成

_																
活動	カのテーマ		『暮らしぶりの映し。北の光が続く道。』													
1.景観 ・			1.景観		2.食				3.環境保全		4.レクリエーション		5.歴史・文化		:	
		自らが自然の恩恵である地元の食材 を味わい、楽しむために、生産者と消 費者が一体となった地域ぐるみの活 動を展開します。また、さらにより多 くの人たちに味わってもらうために、 その魅力をPRし、新しいメニュー作 りにも取り組みます。このような活動 を通じて地域ブランドを構築し、この 地域の「食」が全国、全世界へと発信 します。		萌える天北オロロンルートでは、CO 2削減に向けた新エネルギーの導入 や、身近なゴミの問題、そして地域の 生態系を守り育てる活動などを通じ て自然との共生を実践し、環境先進地 域として、他に先駆けた取り組みを進 めます。			が楽しんでいるアウトドアスポーツ やカルチャーメニューを一つ一つ丁 寧に用意するとともに、迎える側とし てのホスピタリティを充実し、地域と			から受け継いだこれらの貴重な資源を守り育て、そして、過去から現在にいたる悠久の物語を語り継ぎます。また、この地ならではの気象や地形、ま)貴重な資源 たから現在に 継ぎます。ま 象や地形、ま いる価値観に				
		愛着と誇り 全と創出							暮らしに根ざしたもてなしによる暖 かい交流の魅力づくり			先代の暮らしぶりと新たな価値観を 将来に伝え楽しむ				
基本	下方針におけるキーワード	の演出 の出会い	花とみどりの景	愛着と誇りの醸	がは場産品の魅力	画 新メニューの企	構築地域プランドの	ブくり ブーのイメージ フリーンエネル	組みが集の取り	身近な生態 系 の	のサポート	身近なアウトド	活動による交流	と活用と活用	伝承	の発見 の発見
	1.フォトコンテスト	•											•			•
	2.エゾカンゾウ植栽活動		•							•			•			
김	3.景観診断	•		•							•					
プロジェ	4.菜種油・ヒマワリクリーンエネルギー	•	•					•					•			
クト	5.フォーラムの開催	•					•	•			•			•		
	6.食材オーナー制度				•	•	•									
	7.萌天の森		•					•		•	•					
情報	最受発信(全項目に関係)	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•
長	(想定) ルートを満喫できるツアー	•			•			•			•			•		
長期展望	(想定)萌天グッズの企画・開発						•				•					•
至	(想定) 食と観光の情報デスク	•				•					•			•		



萌える天北オロロンルート

Moeru Tempoku - Ororon Route

ヒラメ底建網オーナーin遠別プロジェクト

【内 容】 少量多品目という食の特性と持つ、当ルートの遠別漁協、遠別産業振興公社、そして留萌市のエフエムもえるが協力して、遠別の特産であるヒラメを地元はもちろん、全国に発信するため、オーナー制度を開催。オーナーは、漁イベント当日に揚がったヒラメや雑魚を山分けした。漁当日には、遠別漁港で地域物産販売や、道の駅弁、地元の山芋を使ったトロロどんぶりなどをはじめ、地元の農業高校生が作った花なども実演販売され、地域住民もイベントを終日楽しんだ。

【日 時】平成22年6月19日(土)

【場 所】遠別漁港

【主 催】ヒラメ底建網オーナーin遠別実行委員会

【協 力】萌える天北加ルルト運営代表者会議、(株)遠別産業振興公社、 遠別地域マリンビジョンフォローアップ委員会

【後援】留萌開発建設部、北海道留萌支庁、遠別町

【参加人数】約500人



漁船に乗り込むオーナー



管内特産品の販売ブース



帰港した漁船を待つオーナー

萌える天北オロロンルート

Moeru Tempoku - Ororon Route

萌天サイクリングプロジェクト

【内 容】 3年目のサイクリングプロジェクトは、苫前町、羽幌町の国道、道道、町道を利用し参加者を募り、内陸部などの道路景観を楽しみながら、海に山にふるさとの良さを再発見をする2日間となった。親子で参加が基本で親もはじめて通る道、険しい山道なども体験し親子の絆も深めた。ルートにある資源を活かし、子どもたちの情操教育、地域力を確かめるプロジェクトとなった。

【日 時】平成22年7月18日~19日

【場 所】苫前町・羽幌町

【主 催】 苫前町商工会青年部

【後 援】苫前町教育委員会、羽幌町教育委員会、萌える天北オロロンルート運営代表者会議 【参加人数】約50人(スタッフ含め)









R239を走行中

町道走行中

林道走行中

自然の中で様々な遊びをした

萌える天北オロロンルート

Moeru Tempoku-Ororon Route

トライアスロンメモリアルキャラバンプロジェクト

【内 容】 かねてから萌える天北ルートでは、日本海オロロントライアスロン大会の復活を望む声が高まりつつあります。これを受けて、近年の自転車やマラソンの人気、並びに食品への関心を背景とした、萌天独自のヘルスツーリズムの推進体制を構築し、大会復活の足がかりとする取り組みです。その中で過去のコースである増毛町から幌延町までと更に豊富町から稚内市までの海岸線ルートを試走しました。試走会はメモリアルキャラバンと称し、レース経験者や愛好家、ランナーなどの参加により様々な意見も頂きました。

【日 時】平成22年10月~3月

【場 所】留萌管内全域・宗谷管内

【主 催】萌える天北オロロンルート運営代表者会議

【協 力】宗谷シーニックバイウェイ

【人 数】約50人(スタッフ数含め)



交代でコースを試走する参加者たち



ゴールは稚内北防波堤ドーム



海岸線を一気に北上する

3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題

ルート名称: 萌える天北オロロンルート 報告者: 代表 西 大志 報告年月: 2011/3/31

活動団体

増毛町観光協会、増毛漁業協同組合、増毛町商工会、ゆうゆうマーシーの会、豊かな森川海人をつくる増毛実行委員会、新星マリン漁業協同組合、南るもい農業協同組合、留萌商工会議所、社団法人留萌青年会議所、留萌観光協会、エフエムもえる、小平町観光協会連合会、小平町商工会、NPOラシス・オビラ、小平行来、苫前町観光協会、苫前町商工会、苫前町農業協同組合、北るもい漁業協同組合、羽幌町観光協会、羽幌町商工会、オロロン農業協同組合、初山別村商工会、初山別村観光協会、遠別町観光協会、遠別商工会、遠別漁業協同組合、株式会社遠別産業振興公社、天塩町観光協会、天塩町農業協同組合、天塩商工会、フラワーフレンドリーてしお、天塩川を清流にする会、幌延町観光協会、幌延町商工会、幌延町農業協同組合、NPO法人サロベツ、地域情報受発信システム実行委員会

ルート運営体制(活動団体)

|萌える天北オロロンルートでは、活動テーマ:『暮らしぶりの映し。北の光が続く道。』の実現のためにルート運営代表者会議を意思決定機関とし、活動の窓口となる |幹事を中心とした運営機構によって、各種活動の調整やルート運営活動計画と具体的な活動との整合・提案・調整などを行います。各活動は、先に示した5つの |ルートストーリーとキーワードに基づき、活動団体等からの発意によって、プロジェクトを立ち上げます。プロジェクトは、複数のプロジェクト担当および運営機構(代 |表・幹事、事務局)により構成する「プロジェクト会議」において、ルートストーリーに基づきプロジェクトの整合と相互の調整を検討した上で各種活動を展開します。

	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	ルート運営代表者会議			● 6/23										h = >> L L > =
	幹事会		● 5/28			● 8/4、8/26		● 10/12					● 3/25	各プロジェクトを通じて広く人間関係 を構築でき、情報
	プロジェクト会議	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	共有が出来るようになっている。
														1 2 3 2 2 3 0

ルート名称: 萌える天北オロロンルート 報告者: 留萌開発建設部 報告年月: 2011/3/31

	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	行政連絡会議の実 施												● 3/18	

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

前

ルート名称: 萌える天北オロロンルート 報告年月: 2011/3/31

	ルート(エリア)運営活動計画方針	平成22年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No
景観	愛着と誇りを持てる郷土の景観の保全と創出	道路付属施設の検討	12月15日,1月12日, 2月9日	幌町、遠別町、天塩	・一昨年度、把握した道路景観および地域景観に関する意向を踏まえて、平成 22年度は道路構造について現地の詳細調査を行った。また、地域の方々と道 節や付帯施設の構造などについて話し合い、具体的な対策方針を策定すること によって、今後、新設される付属施設には対策方針に配慮していく予定。 ・課題としては、既に設置されている防雪柵(未収納タイプ)が眺望を妨げている 場合が多く、長期的な配置制画の検討が必要である。また、景観を阻害してい る電柱・電線などの道路占用物についても移設等の協議をする必要がある。	配置検討案を基に、具体的な 整備を進めていく。	2
食	自然の恩恵である地元食材のブランド化と魅力の発信	ヒラメ底建網オーナーin遠別プロジェクト (食材オーナー制度プロジェクト)	6月19日	留萌開発建設部 遠別町 留萌振興局	・イベント運営協力や実施機関の調整および、萌える天北オロロンルートの活動 紹介と道路事業を広報するパネル展を行った。	地域ブランド構築のため、継続に向けた行政としての支援 体制の検討が必要。	5
環境保全	地球に優しい「くらしぶり」のお手本と促進	萌天の森プロジェクト	7月6日	留萌開発建設部	・「萌天の森」において、荒廃地の景観向上とドライブ観光で排出されるCO2を 吸収するカーボンオフセットの取組も兼ね合わせた植裁を実施した。	行政も協力し継続した維持管 理体制の検討が必要。	6
垛况床土	地球に優しい「くらしぶり」のお手本と促進	エゾカンゾウ植栽プロジェクト	5月~9月	留萌開発建設部小平町	・ 中年採取した種を5月にプランターへ植えたが、天候不良等により発芽状態が 非常に悪かっため、地域住民との苗植が出来なかった。本年度秋には小平町 や苫前町において種の採取ができた。 課題としては、必要な資材を毎年提供して貰える協力体制を構築する必要があ る。	地域で今後も継続して実施出 来るように協力していく。	1
	ルート活動の情報共有	行政連絡会議情報の配布	通年	行政連絡会議全構成 機関	行政連絡会議事務局より、行政連絡会議全構成機関へ「萌える天北オロロンルート」や行政の活動状況を情報共有するため、情報誌を作成し配布した。	今年度は3回のみの配布であったが、今後はタイムリーな情報提供に努め、分かり易く効果的な内容で今後も継続して作成していく。	7
	「萌える天北オロロンルート」の地域への浸透	道路情報板での「萌える天北オロロンルート」 表示	通年	留萌開発建設部	指定ルートとなったことにより、シーニックバイウェイ「萌える天北オロロンルート」を地元や観光客などに認知していただくことを目的に、シーニックバイウェイルート沿線の国道情報板に「萌える天北オロロンルート」の表示を実施。		7
情報提供活動	「萌える天北オロロンルート」の地域への浸透	広報誌でのルート活動の広報	通年		管内各自治体で発行される広報誌に萌える天北オロロンルートの活動状況や 活動予定などの情報を毎月掲載。	シーニックバイウェイ及び萌 える天北オロロンルートの認	7
	ルート情報の提供と創出	萌える天北才ロロンルートホームページのリンク	通年	留萌市、增毛町、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、幌延町、留萌開発建設部	萌える天北オロロンルートの広報の為、各行政機関のホームページに萌える天 北オロロンルートHPのリンクを掲載した。	知度向上のために、今後も継 続的に実施する。	7
	ルート情報の提供と創出	「るもいfan.net」のリンク及び「るもいfan通信」 の掲示	通年	留萌市、增毛町、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、幌延町、留萌開発建設部	地域情報受発信システム実行委員会で作成している「るもいfannet」を各行政 機関ホームページにリンクを掲載。また、フリーペーパー「るもいfan通信」を各関 係機関庁舎内に掲示した。		7

5. 平成21年度活動報告への助言に対する状況報告

ルート名称: 萌える天北オロロンルート	報告者:代表 西 大志	報告年月:2011/3/31
76 1 4 17 1 477 6 67 4 16 1	INCH THE CONTRACTOR	TK [1 /] . Lot 1 / 0 / 0 !

平成21年度活動報告への助言	平成22年度 状況報告	備考
シーーックハイウエイエ海追の持続的推進やフランドの形成・活用に向け、引き続き、ルート活動の地域への浸透、人材育成の充実、ルート活動の基盤の選集に対象しませた。	・当ルートでは、幹事会、プロジェクト制をとっており、より活動に近い方々が主役で活動できる仕組みづくりに心掛けている。しかしながら、シーニックバイウェイの制度そのものの理解浸透にはまだ時間を要する状況である。『道』をきっかけとするという概念は、運営をリードする幹事会において、理念形成を図り、プロジェクトにおいて可能な限り具現化し、取り組んでいけるように進めている。その活動の中で少しでも地域住民の皆さんがゆっくりでもシーニックの取り組みを知って頂ければと考えている。地域で活躍する人や団体とのネットワークの構築に向けて、幹事会、プロジェクトチームを活用し基盤強化を図っている状況。	

ルート名称: 萌える天北オロロンルート	報告者: 留萌開発建設部	報告年月:2011/3/31

平成21年度活動報告への助言	平成22年度 状況報告	備考
シーニックバイウエイ北海道の持続的推進やブランドの形成・活用に向け、引き続き、ルート活動の地域への浸透、人材育成の充実、ルート活動の基盤の強化に努められたい。	・ルート活動を地域へ広く浸透させるため、「行政連絡会情報」を行政連絡会議のメーリングリストを用いて、ルート活動の情報を発信している。また、行政連絡会議の場を活用して、情報提供や情報共有の徹底を図るとともに、行政間の積極的な連携体制の確立が必要である。 ・人材の育成については、行政担当者のルート活動へ積極的な参加を図り、理解と意識を深めることが大切である。 ・ルート活動の基盤の強化については、現在活動しているルート活動が継続して実施できるように行政としての支援を進め、ルート内での活動を広めるとともに、地域住民に浸透した、地域に根ざした活動になるようにすることが必要である。 ・行政内部でも、行政の担当者以外の者がルート活動に参加するように、ルート活動を積極的にPRする事が大切である。また、ルート間の連携を強化すべく、他ルートの行政にも積極的にルート活動を発信して、ルート間の情報提供や情報共有を進める事が大切であると考える。 ・ルート活動の役に立てるように、そして、今後も持続可能なルート活動を進めていくために、行政としてどのような支援・協力ができるか十分に検討していく必要がある。	